



2026年3月期 第2四半期
決算説明会レポート(書き起こし)

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498

2026年3月期 第2四半期 決算説明会レポート

- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
- 2026年3月期 通期業績予想

Summary

■ 2026年3月期 第2四半期 業績概要

前年同期比二桁成長を継続、かつ過去最高の売上高、営業利益で着地
特に営業利益は前年同期比+28.9%と大幅増益

中間純利益は主にオフィス移転に伴い上期で112百万円の特別損失を計上したこと等によりため
前年同期比減となるが、それを除外すると増益

- | | |
|--------------|--|
| トラストサービス | ・ 高成長牽引サービス iTrust中心にリカーリング伸長とともに大型受託開発により増収
・ iTrustトランザクション件数は前年同期比+46%と大きく成長 |
| プラットフォームサービス | ・ CentOS7延長サポートの更新状況想定通りに進捗
・ EMLinuxサポートおよびセキュリティコンサル・受託開発堅調推移し増収 |

■ 2026年3月期 通期業績予想

売上高 営業利益ともに前期比二桁増収増益を計画
通期業績予想達成に向けて順調に進捗

成長に向けて人的資本、サービス提供インフラへの積極投資をこなしても
営業利益は前期比二桁成長を見込む

■ IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.cybertrust.co.jp/corporate/ir/>





2026年3月期 第2四半期 決算説明会

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498
2025年10月29日

サイバートラスト株式会社、代表取締役社長の北村です。本日はお忙しい中、当社決算説明会にご参加いただきありがとうございます。それでは、2026年3月期 第2四半期 決算についてご説明いたします。

Agenda

- エグゼクティブサマリー
- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- 経営トピックス
- 2026年3月期 通期業績予想

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

2

本日のアジェンダです。

最初はエグゼクティブサマリーです。

次に2026年3月期 第2四半期 業績概要、続いてサービス別概況としてトラストサービスとプラットフォームサービスをご説明いたします。

そして経営トピックス、最後に2026年3月期 通期業績予想についてご説明いたします。

2026年3月期
第2四半期業績

第2四半期として、二桁成長かつ過去最高の売上高、営業利益
- リカーリングサービスが高成長牽引サービスの伸長により堅調に推移

2026年3月期
通期業績予想

通期業績予想達成に向けて順調に進捗

トピックス

Cybertrust商標取得および認証基盤移行
- 将来の海外展開に備え、商標の国際出願を実施
- 自社開発ソフトウェア移行により粗利率改善見込

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

3

最初にエグゼクティブサマリーとなります。

2026年3月期 第2四半期の業績は、第2四半期として二桁成長かつ、過去最高の売上高、営業利益となりました。高成長牽引サービスの伸長により、リカーリングサービスが堅調に推移しています。これにより、2026年3月期の通期業績予想達成に向け、順調に進捗しております。

トピックスとしては、Cybertrust商標の取得および認証基盤の移行がありました。経営トピックスでご説明いたします。

- エグゼクティブサマリー
- **2026年3月期 第2四半期 業績概要**
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- 経営トピックス
- 2026年3月期 通期業績予想

2026年3月期 第2四半期の業績概要です。

第2四半期として、過去最高の売上高、営業利益

売上高 前年同期比 17.6%増 **3,916** 百万円 営業利益 前年同期比 28.9%増 **699** 百万円

(単位:百万円)	2025年3月期 第2四半期(6カ月累計)	2026年3月期 第2四半期(6カ月累計)	前年同期比
売上高	3,331	3,916	+17.6%
営業利益	543	699	+28.9%
経常利益	556	706	+26.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	409	375	△8.2%
EBITDA	799	1,001	+25.3%

※2025年4月オフィス移転に伴い上期で112百万円の特別損失を計上 5
Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

2026年3月期 第2四半期の6カ月累計連結業績については、第2四半期として過去最高の売上高、営業利益となりました。

売上高は前年同期比17.6%増の39億1,600万円、営業利益は同28.9%増の6億9,900万円となっています。また当期純利益は、25年4月にオフィス移転に伴う1億1,200万円の特別損失計上などにより、前年同期比8.2%減の3億7,500万円となりました。

取引形態別 四半期売上高推移

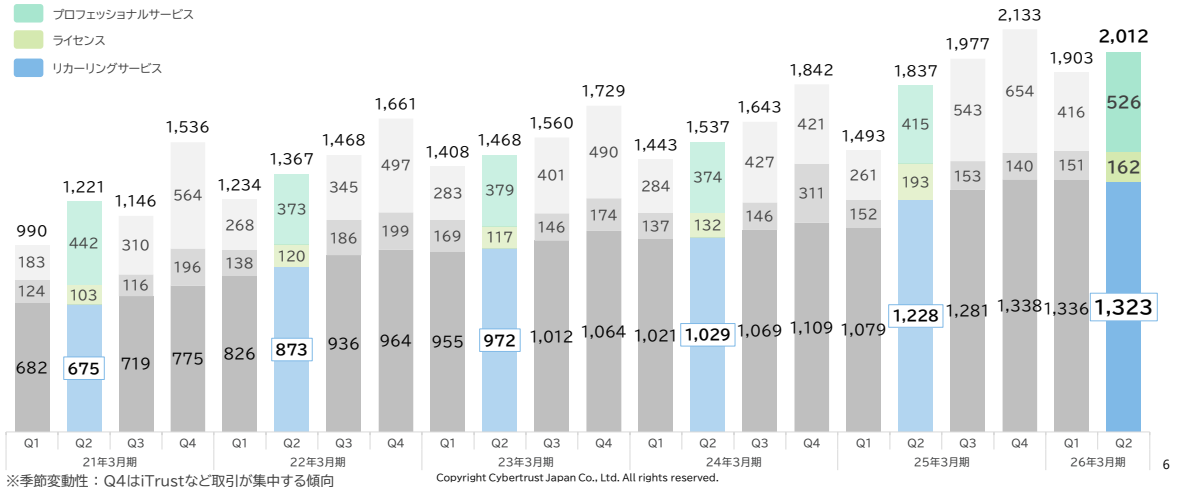


第2四半期 リカーリング売上高 前年同期比伸長

高成長牽引
サービスが牽引

(単位:百万円)

- プロフェッショナルサービス
- ライセンス
- リカーリングサービス



※季節変動性：Q4はiTrustなど取引が集中する傾向

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

6

続いて、取引形態別の四半期売上高の推移です。

本第2四半期のリカーリング売上高は、前年の12億2,800万円から13億2,300万円となり、高成長牽引サービスにより前年同期比で伸長しています。この内容については、サービス別概況の部分でご説明いたします。

■ サービス別 売上高実績



- トラストサービス 高成長牽引サービス iTrust中心にリカーリング伸長とともに大型受託開発により増収
- プラットフォーム CentOS7延長サポートの更新状況想定通りに進捗、EMLinuxサポートおよびセキュリティコンサル・受託開発堅調推移し増収

(単位: 百万円)	2025年3月期 第2四半期(6カ月累計)		2026年3月期 第2四半期(6カ月累計)		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
トラストサービス	1,865	56.0%	2,199	56.2%	+334	+17.9%
プラットフォーム サービス	1,466	44.0%	1,716	43.8%	+250	+17.1%
売上高合計	3,331	100%	3,916	100%	+584	+17.6%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

7

次に、サービス別の売上高実績となります。

トラストサービスは、高成長牽引サービスiTrustを中心にリカーリングが伸長しました。また大型受託案件の獲得もあり、前年同期比17.9%増の21億9,900万円となりました。

プラットフォームサービスは、CentOS7の延長サポートについて、更新状況は想定通りに進捗しています。また、IoT向けの組み込みOSであるEMLinuxサポート、セキュリティコンサル、受託開発が堅調に推移しました。その結果、前年同期比17.1%増の17億1,600万円となりました。

- エグゼクティブサマリー
- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- 経営トピックス
- 2026年3月期 通期業績予想

続いてサービス別概況となります。最初にトラストサービスについてご説明いたします。

高成長牽引サービス iTrust成長しリカーリング伸長

(単位：百万円)

トラストサービス 売上高 (取引形態別)	25年3月期 第2四半期 (6カ月累計)	26年3月期 第2四半期 (6カ月累計)	前年同期比
リカーリング サービス	1,598	1,781	+11.5%
ライセンス	75	59	△21.3%
プロフェッショナル サービス	191	359	+87.4%
売上高合計	1,865	2,199	+17.9%

リカーリングサービス

- 高成長牽引サービスの iTrustは、金融機関向け eKYCサービスや電子契約サービスが伸長し前年同期比43.5%増
- デバイスIDは企業向けのクラウド認証サービス伸長
- サーバー証明書は堅調な更新状況により微増

プロフェッショナルサービス

- 法務省の商業登記電子証明書のリモート署名システム案件などにより伸長

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

9

トラストサービスにおいては、高成長牽引サービスのiTrustが成長して、リカーリングが大きく伸長しました。特に金融機関向けのeKYCサービスや電子契約サービスが大きく伸長し、前年同期比43.5%増となりました。また、デバイスIDは企業向けのクラウド認証サービスが伸長しており、サーバー証明書は更新状況が堅調な状況にあり微増となっています。以上の結果から、リカーリングサービスは前年同期比11.5%増の17億8,100万円となりました。

プロフェッショナルサービスについては、法務省の商業登記電子証明書のリモート署名システム案件などにより、前年同期比87.4%増の3億5,900万円となりました。

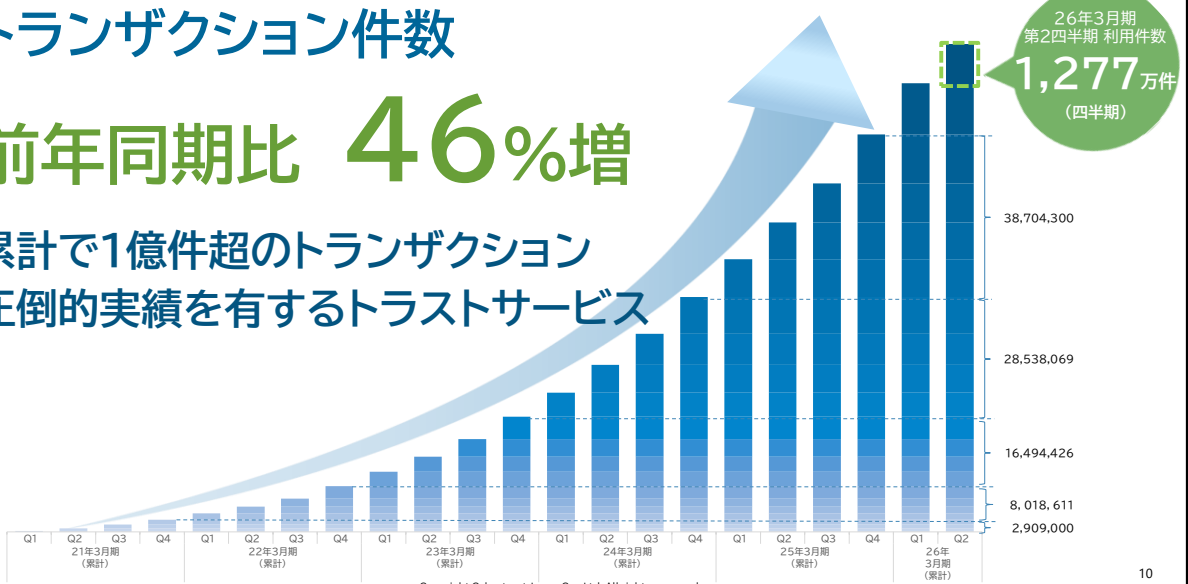
■ 高成長牽引サービス iTrustのKPI四半期推移（有償API利用件数）



トランザクション件数

前年同期比 **46%増**

累計で1億件超のトランザクション
圧倒的実績を有するトラストサービス



iTrustのKPIであるトランザクション件数は、前年同期比46%増と、非常に大きな伸びを示しています。本第2四半期のトランザクション件数は1,277万件であり、第1四半期に引き続き1,000万トランザクションを超える大きな成長となっています。

iTrustの利用の拡大に向けた取り組み

法務省での採用事例

法務省の商業登記電子証明書リモート署名システムの
設計・開発・運用を落札
リモート署名基盤の提供で行政DXを強力に推進



代表的な行政での採用実績を軸に
公共案件の獲得に繋げ収益拡大

※：サイバートラスト、法務省の商業登記電子証明書のリモート署名システムの設計・開発・運用業務を落札し、リモート署名基盤を提供
※：(デジタル庁)デジタル社会の実現に向けた重点計画

日立製作所経由の三菱UFJ銀行での採用事例

日立製作所と連携したeKYC支援サービスを機能拡張し
iPadでマイナンバーカードのICチップ読み取りに対応
窓口においても法改正を見据えた厳格な本人確認を実現

三菱UFJ銀行の店舗にてサービス運用開始



三菱UFJ銀行での利用イメージ

非対面のスマホによる本人確認に加え
対面の窓口業務でも本人確認が可能となり
新たな利用場面の創出を通じて収益拡大

※：日立の「eKYC 支援サービス」をサイバートラストとの連携により機能拡張し、
iPad における 本人確認書類の IC チップ読み取りのサービスとして提供開始。安心・安全な本人確認を支援

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

11

成長を更に加速させるための、iTrustの取り組みについてご説明いたします。

まず、法務省の商業登記電子証明書リモート署名システムの設計、開発、運用を落札しました。本リモート署名基盤の提供により、行政DXを強力に推進します。また、法務省を代表とする行政での採用実績を軸に、公共案件の獲得につなげて更なる収益拡大を目指します。

次は、日立製作所様経由の三菱UFJ銀行様での事例となります。日立製作所様と連携したeKYC支援サービスの機能を拡張して、これまで実現できていなかった、iPadでのマイナンバーカードのICチップ読み取りに対応しました。これにより、窓口においても法改正を見据えた厳格な本人確認を実現しています。従来の非対面のスマホによる本人確認に加えて、対面の窓口業務においても、本人確認が可能となりました。新たな利用場面の創出を通じて、更なる収益の拡大を目指します。

- エグゼクティブサマリー
- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- 経営トピックス
- 2026年3月期 通期業績予想

次にプラットフォームサービスとなります。

各種LinuxOSのサポート中心にリカーリング伸長

(単位：百万円)

プラットフォーム サービス売上高 (取引形態別)	25年3月期 第2四半期 (6カ月累計)	26年3月期 第2四半期 (6カ月累計)	前年同期比
リカーリング サービス	708	878	+23.9
ライセンス	271	254	△6.4
プロフェッショナル サービス	485	583	+20.2
売上高合計	1,466	1,716	+17.1

リカーリングサービス

- 2024年7月開始のCentOS7延長サポートの更新状況は想定通り
- 大手事業者の各種LinuxOS大型サポート案件を受注
- EMLinuxサポートは通信制御機器・車載機器・OA機器などで新規案件を獲得し前年同期比 42%増

ライセンス

- CloudLinux社と連携して提供したCentOS延長サポートの更新状況は想定通り

プロフェッショナルサービス

- 欧州サイバーレジリエンス法関連のセキュリティコンサル及び子会社のリネオソリューションズ中心に受託開発伸長

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

13

プラットフォームサービスは、各種LinuxOSのサポートを中心に、リカーリングが伸長しました。昨年7月開始のCentOS7サポートについては、本年7月に更新を迎えていますが、更新状況としては想定通りに進捗しています。その中で、新たに大手事業者の各種LinuxOSの大型サポート案件を受注しています。また、IoT機器向けの組み込みOSであるEMLinuxのサポートは、通信制御機器、車載機器、OA機器などで新規案件を獲得した結果、前年同期比42%増と大きく伸長しています。その結果、リカーリングサービスは前年同期比23.9%増の8億7,800万円となりました。

ライセンスについては、CloudLinux社と連携して提供したCentOS延長サポートは契約月に一括計上となりますが、更新状況は想定通りの進捗となっています。前年同期比6.4%減の2億5,400万円となりました。

最後にプロフェッショナルサービスです。欧州のサイバーレジリエンス法関連のセキュリティコンサル、そして子会社のリネオソリューションズを中心に受託開発案件が伸長しました。この結果、前年同期比20.2%増の5億8,300万円となりました。

■ サーバー向けOSの利用領域の拡大に向けた取り組み



エンタープライズ市場での採用事例

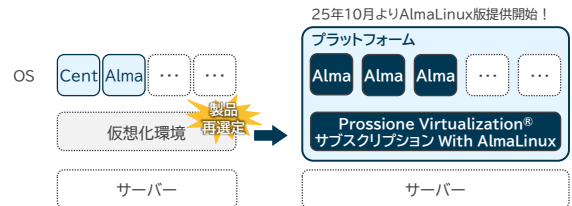
大手事業者の国産クラウドサービスにて
クラウド基盤全体の各種LinuxOS大型サポートを獲得
セキュリティパッチサービスを数千台規模で提供



大手事業者に加え、金融機関においても
セキュリティ意識が高まる中
ニーズを的確に捉えた各種サポートで収益拡大

重要インフラ市場での採用事例

NTTデータとの協業開始
本協業によりシステム主権の確保と長期安定運用を実現
OSを仮想化環境やサーバーと一体的に提供



経済安全保障の観点からシステム主権を
確保できる自国・自社でコントロール可能な
プラットフォームの提供でサポート収益拡大

※：NTTデータとサイバートラスト、「Prossione Virtualization®」の製品強化および長期サポート体制確立に向けた協業を開始
※：(NTTデータ)「Prossione Virtualization」の紹介サイト

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

14

LinuxOSの分野において、特に注力しているサーバー向けOSの利用領域の拡大に向けた取り組みです。

まずエンタープライズ市場では、大手事業者の国産クラウドサービスにおいて、クラウド基盤全体の各種LinuxOS大型サポートを獲得しています。セキュリティパッチサービスを数千台規模で提供する、非常に大きな案件です。また大手事業者に加えて金融機関においても、セキュリティ意識が非常に高まる中で、ニーズを的確に捉えた各種サポートを提供して収益拡大を目指します。

重要インフラ市場においても、本年7月にNTTデータ様と協業を発表しています。本協業により、重要インフラ市場で非常に重要な、システム主権の確保と長期安定運用を実現しました。また提供形態についても、OS単体の提供から、仮想化環境との連携、あるいはサーバーとの一体的な提供まで、提供形態の幅を広げてビジネスの拡大に取り組んでいます。

昨今の課題になっている経済安全保障の観点から、システム主権を確保できる自国・自社でコントロール可能なプラットフォームの提供が非常に重要になっています。当社はこのようなプラットフォームを提供することで、更なるサポート収益の拡大を目指します。

- エグゼクティブサマリー
- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- **経営トピックス**
- 2026年3月期 通期業績予想

続いて経営トピックスです。

Cybertrust商標の取得

- Verizon Australia Pty Limited(以下「Verizon」)から許諾を受け使用していた商標の権利を2025年7月に取得
- 将来の海外展開に備え、当該商標の国際出願を実施



電子認証局ソフトウェアの移行

- デバイスID等において使用していたVerizonの電子認証局ソフトウェアから自社開発の認証サービス基盤へ移行作業が順調に進行
- Verizonへのロイヤリティ支払が軽減し、下期以降の粗利率の改善に貢献

上記によりVerizonとの取引関係に基づくリスク(商標、電子認証ソフトウェアの継続利用)が解消見込み

- 有価証券報告書「事業等のリスク」における第1番目に記載するリスクであったが、直近の有価証券報告書(2025年6月)で削除

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

16

有価証券報告書の「事業等のリスク」部分で、Verizon社との取引関係に基づくリスクとして記載をしていた内容です。2025年6月に解消の見込みが立ったことから、有価証券報告書から削除しましたが、当時の見込みから具体的な進捗手続きの完了があったので、ご報告いたします。

1点目はCybertrust商標の取得です。従来、Verizon社から許諾を受けて使用していた、当社の社名にも用いている商標です。本商標権を2025年7月に取得しました。また、取得に合わせて将来の海外展開に備え、本商標を国際出願しています。

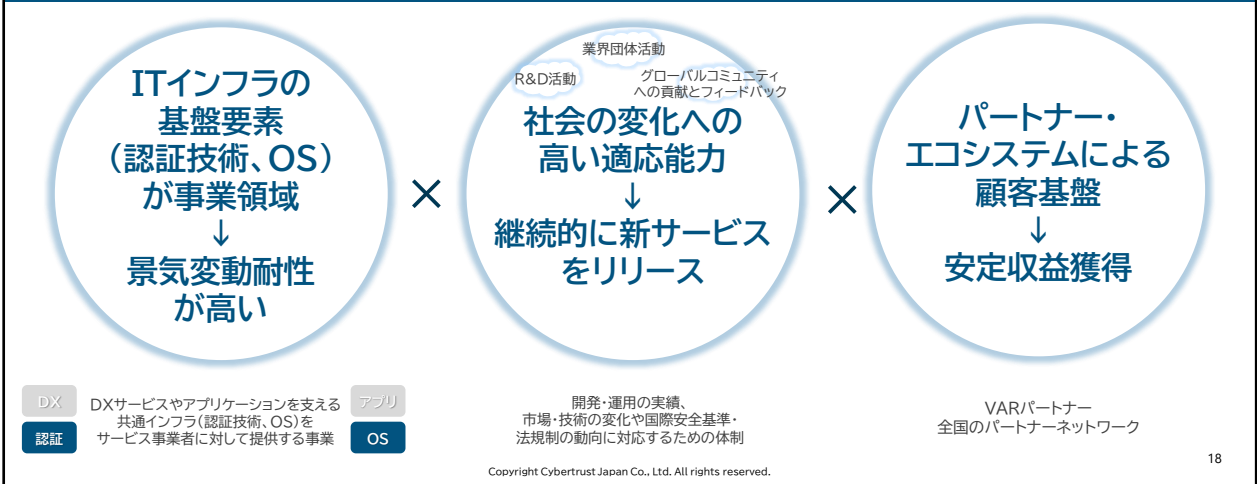
2点目の電子認証局ソフトウェアの移行については、デバイスIDなどにおいて利用していたVerizon社の電子認証局ソフトウェアから、自社開発の認証サービス基盤への移行が、現在順調に進行しています。この進行に合わせて、Verizon社へのロイヤリティ支払いが軽減するため、下期以降の粗利率の改善に大きく貢献しています。

これらの2点に関しては当社の事業上のリスクでしたが、解決に向けて確実に取り組んでいます。

- エグゼクティブサマリー
- 2026年3月期 第2四半期 業績概要
- サービス別概況
 - トラストサービス
 - プラットフォームサービス
- 経営トピックス
- **2026年3月期 通期業績予想**

最後に2026年3月期の通期業績予想です。

デジタル社会で必要とされる基盤要素を
社会の変化に合わせて提供し続けることで安定的な利益成長を実現



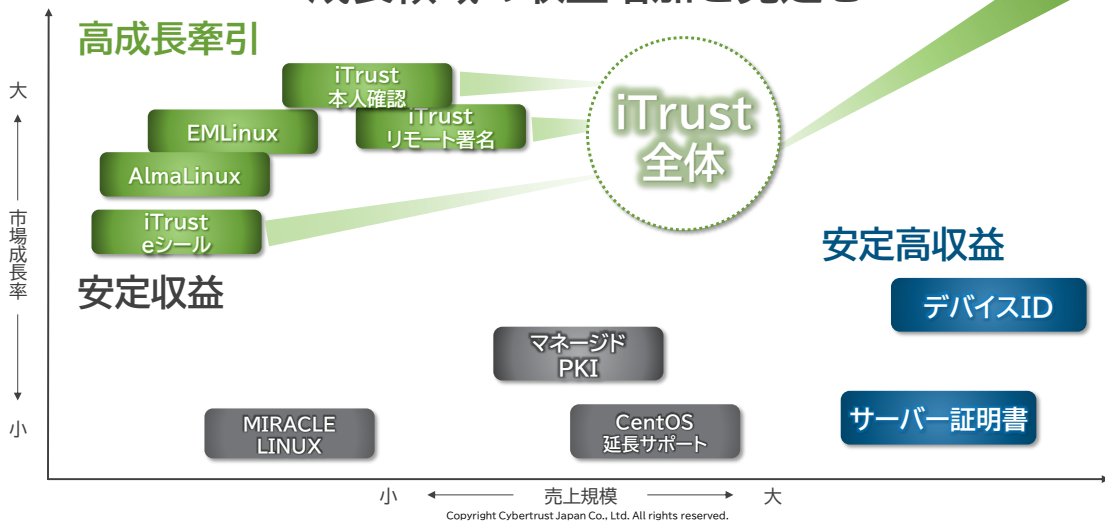
通期業績予想の前に、当社のデジタルトラスト事業の継続成長の根拠として、その大枠・概要をご説明いたします。

当社はITの中でも、インフラの基盤要素である認証技術やOSを事業の主要な領域としています。基盤技術と基盤要素は、景気変動耐性が非常に高く、普遍的にいつでも求められる技術および事業領域です。当社はこの技術および事業領域をベースに、R&D活動、業界団体活動、グローバルコミュニティへの貢献などを通じて、社会の変化あるいは社会課題をいち早くキャッチして、次の新しいサービスにつなげる機能を有しています。

これらの取り組みにより創出した新たなサービスを、パートナー・エコシステムを通じて既存顧客へ提供しています。これにより安定的な収益を確保するビジネス基盤を構築しております。

■ デジタルトラスト 成長領域の売上拡大フェーズへ

DX化の進展、国際安全基準・法規制の動向に伴い
成長領域の収益増加を見込む



本ビジネス基盤に基づいて、新たな成長領域への投資も行っています。中でも、DXの進展や国際安全基準・法規制の動向にともない一番力を入れているのは、iTrustサービスの成長です。

従来の本人確認、あるいはリモート署名に、今回新たにeシールも加えて、更なる成長を見込んでおります。

人的資本とサービス提供インフラを中心に
さらなる成長のため積極的に投資

働き方改革
研修&リスクリング
新報酬制度
(業績連動)

認証センター/
バックアップセンター
+
第2認証センター
(成長+災害対策)

サポート体制強化
(運用+技術サポート)

人的資本・サービス提供インフラへの投資をこなし二桁成長

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

20

また成長を支えるため、人的資本およびサービス提供インフラを中心に、積極的な投資をしています。

人的資本に関しては、働き方改革・研修およびリスクリング、サービス提供インフラに関しては、当社の今のメインサイトである認証センターおよびバックアップセンターに加えて、今下期には更なる成長と災害対策を目的とした第二認証センターを開局する予定です。

また当社のサービスは、様々な社会インフラにも組み込まれており、経済、社会の活動に非常に大きな関与をしています。そのようなサービスを支えるにあたり、サポート体制が非常に重要です。こうした体制強化についても、しっかり投資をしていきます。

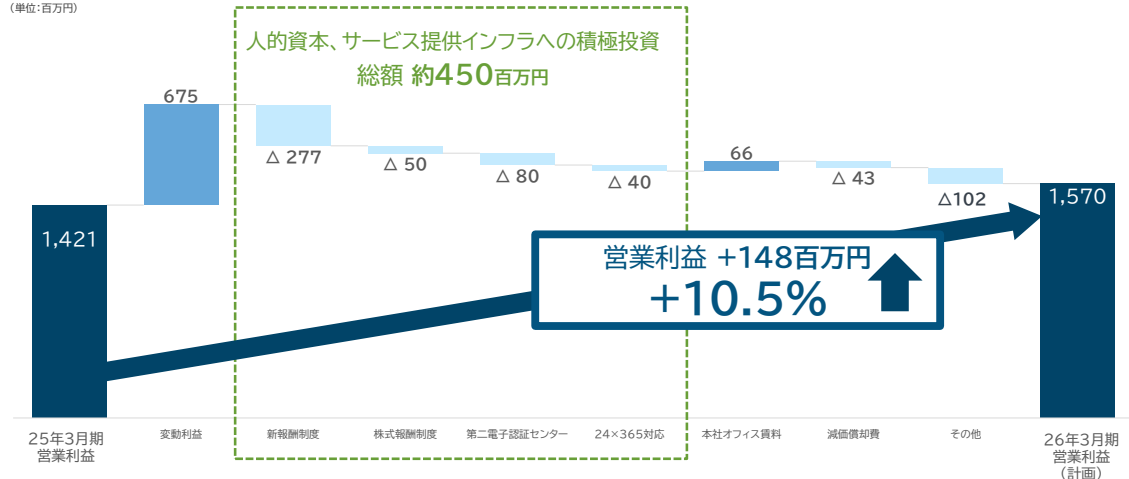
これらの人的資本、サービス提供インフラへの投資をこなし二桁成長を実現する、これが当社の基本的な考え方です。

営業利益 増減分析



成長に向けたより一段の積極投資をこなしても、営業利益は二桁増益

(単位:百万円)



Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

21

営業利益の増減分析です。

人的資本およびサービス提供インフラに対し、今期4億5,000万円の投資を行っても、営業利益が前期比10.5%増の15億7,000万円を予想数字としています。

通期業績予想達成に向けて順調に進捗

単位:百万円	25年3月期	26年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,442	8,200	+747	+10.2%
営業利益	1,421	1,570	+148	+10.5%
営業利益率(%)	19.1	19.1	—	—
経常利益	1,448	1,570	+121	+8.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	969	970	+0	+0.0%※
EBITDA	1,993	2,208	+215	+10.8%

※2025年4月オフィス移転に伴い上期で112百万円の特別損失を計上
Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

22

2026年3月期の通期業績予想となります。

売上高は前期比10.2%増の82億円、営業利益は10.5%増の15億7,000万円です。
これらの通期業績予想達成に向けて、順調に進捗しております。

2026年3月期の期初配当予想は 1株当たり 11円50銭 を継続

配当 政策

中長期的な企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行いつつも、中長期的視点で事業拡大を図る方針に対して株主の理解を深めていただくため、期末配当として年1回の剰余金の配当を安定的かつ継続的に実施していくことを基本方針とします。

	中間配当	期末配当
2024年3月期実績		8円75銭
2025年3月期実績		11円50銭
2026年3月期予想	0円00銭	11円50銭

※2025年10月1日を効力発生日として株式分割を実施しています

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

23

最後に配当予想となります。

「中長期的な企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行いつつも、事業拡大を図る方針に対して株主の皆様の理解をいただくため、期末配当として年1回の剰余金の配当を安定的かつ継続的に実施していく。」この基本方針に即して、2026年3月期の期末配当予想は1株当たり11円50銭を継続いたします。



すべてのヒト、モノ、コトに 信頼を

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

24

以上が決算の説明となります。ご清聴いただきありがとうございました。